

# 給食会たより

令和4年度第8号

(公財)熊本市学校給食会

R4.11.30 文責：本郷

## れんこん圃場視察

11月11日に南区にあるれんこんの圃場視察を行い、生産者の守田さん親子にお話を聞かせていただきました。



【れんこん圃場の収穫の様子】

○3月下旬～5月上旬に種用れんこんの植え付けをする。学校給食用は長い方が好まれるので、種用として節の長いれんこんを使う。(結果としてだんだん長くなっている。)

○7月中旬から3月まで圃場をかえながら収穫する。

○夏れんこんはシャキシャキしてサラダ向き。葉が枯れると土の中で熟成するので、11月からのれんこんはホクホクして煮物向き。寒い期間はれんこんのおいしさを保つために、土の中で冬眠させておく。

○冬は井戸水が使える圃場にし、水が凍りそうな時は井戸水を一晩中出したままにして水温を保つ。また、冬は鴨がれんこんを掘ってかじるので、鴨よけの網を張る。

○れんこんはデリケートなので、収穫の際傷つかないように、高圧の水で泥をかき上げてれんこんを浮かして掘りあげる。

○どろどろの青粘土質で育てたれんこんは粘り気があって、切った時に糸を引く。

○収穫したれんこんは地下水で泥を落とし、規格・数量ごとにつめて、出荷する。

○収穫した後も殺菌のために圃場の水は貯めたままにしておく。

○土壌改良のために麦わらを入れて代かきをして、元肥にする。



【長くて大きい順に給食用、地域販売用、市場用】

「熊本市の子どもたちはみんなうちのれんこんを食べて育っています。」と守田さんは誇らしそうに語ってくれました。「だからこそ、台風の次の日の発注にも安定供給できるよう台風の日にも必死で量を確保しています。」という言葉に、生産者としての責任感と心意気を感じました。



【収穫したれんこん(右手)に栄養を取られ、しわしわになった植付用のれんこん(左手)】



【守田さん親子】